国民体育大会マーク

第72回国民体育大会 えひめ国体マスタープラン

概要版

会場全体イメージ

イメージ案であり確定したものではありません。

第72回国民体育大会愛媛県準備委員会事務局

〒790-8570　松山市一番町四丁目4-2　愛媛県教育委員会内
TEL 089-912-2730　FAX 089-943-0391

R100
古紙配合率100%の再生紙を使用しています。

『えひめ国体マスタープラン』の概要について

えひめマスタープランは、平成29年のえひめ国体の目指すべき方向性、開催準備の進め方、開会式会場のグランドデザイン等を検討するとともに、その結果を県民に提示し、国体準備に向けた理解を更に深めることを目的に策定しました。
マスタープランは、全5章の構成となっており、その主なポイントは、次のとおりです。

主なポイント

1. えひめ国体の目指す方向性（第2章）について

5つの開催方針（「手づくりの国体」、「実になる国体」、「身の丈にあった国体」、「ふれあいの国体」、「愛媛らしさあふれる国体」）に沿って、具体的な活動事例を提案

2. えひめ国体開催に向けた諸準備の推進（第3章）について

① 今後のスケジュール

平成24年頃　国体開催に関する「内定」
平成26年頃　国体開催に関する「決定」
平成29年　えひめ国体の「開催」

② 取り組むべき準備作業

今後は国体開催に向けて、「大会運営」、「競技力向上対策」、「施設整備」の3つの準備作業を着実に進める

＜開催準備に係る経費の先催県での事例＞

・大会運営費　：約50～60億円程度
・競技力向上対策費：約30～40億円程度
・施設整備費　：先催県毎でそれまでの施設整備の進捗状況等により、投入経費は数十億円～数百億円とバラツキが大きい
（例)高知県(H14)‥554億円／岡山県(H17)‥181億円／兵庫県(H18)‥45億円

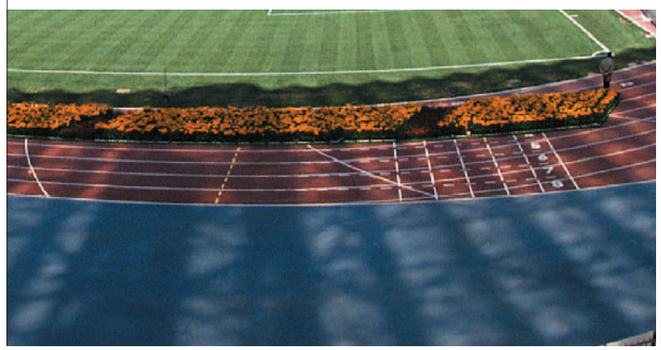
③ 各競技会場の施設整備に向けた検討（右ページ参照）

3. えひめ国体開会式会場のグランドデザイン（第4章）について

開会式の開催規模：　総参加者数 30,000人 を想定

（※）本県では「身の丈にあった国体」を目指す観点から他県の規模よりも抑える

① 開会式会場の選定について（中面参照）
② 開会式会場への交通アクセスについて（中面参照）
③ 新しい県総合運動公園の全体構想について（中面参照）



1. 各競技会場の施設整備に向けた検討

38競技（正式競技＋公開競技）の競技会に要する施設整備については、今後、国体改革の動向を見極めながら、本県の実情にあった整備方策等の詳細な検討が必要ですが、特に、国体基準を満たさず、施設面で大きな課題を抱える競技として「水泳」、「クレー射撃」、「馬術」、「ボート」、「カヌー」、「ライフル射撃」の検討の方向性を提示します。

競技名	検討の方向
水　泳	競泳・水球・飛込・シンクロの全4種目の競技を実施するためには、水深2m以上の50mプール、25m補助プール、飛込み用プールなど大規模な施設が必要。 ただし、水泳の開催時期が10月上旬から9月への前倒しが可能となったため、例えば、大学や高校など学校体育施設としての屋外プールでの対応の可能性を検討し、その検討の結果、やむを得ない場合は、一部県外での開催も視野に入れて検討
クレー射撃	競技の性格上、仮設は不可。また、施設整備に当たっては、使用する鉛玉による環境汚染対策や、人家から離れた場所に施設を設置することに伴う土地造成や進入路の確保などが必要であり、国体後の利用も考慮すると、県外での開催を視野に入れて検討
馬　術	仮設の場合でも、大規模な馬場や練習場、数多くの厩舎やその付添人の宿泊施設、運搬用の大型車両を収容できる駐車場等の関連施設が必要であることから、県外での開催も視野に入れて検討
ボート	既設の鹿野川ボートコースで開催する場合、水路の延長が不可欠であるが山を削るなどの対応が必要となるため、黒瀬ダムや玉川ダム等の候補地を含め、更に検討
カヌー	フラットウォーターは、ボートの競技会場の選定と合わせた検討が必要
	スラローム・ワイルドウォーターは競技会の開催が可能な水量を確保できる河川が必要であり、県内で候補地選定は難しいので、四国内の県外を含めて検討
ライフル射撃	ピストル以外のエアースモールボア等の施設については、競技の性格上、人家から離れた場所で安全性が確保された大型の施設が必要であるとともに、仮に仮設で対応した場合であっても、国体開催年の前後の年も全国大会等が開催できるよう3年間の設置が求められていることから、これらの条件が満たせるような立地場所を検討

2. 開会式会場の選定について

1 開会式への参加者規模の算定

先催県	開会式会場（収容人数）	参加者区分			合　計
		入場行進者	観　覧　者	大会関係者	
平成18年 兵庫国体	ユニバー総合運動公園 陸上競技場（45,000名）	8,143名	22,882名	10,700名	41,725名
平成19年 秋田国体	秋田県立中央公園 陸上競技場（22,000名）	7,950名	12,400名	6,150名	26,500名
平成20年 大分国体	九州石油ドーム（34,000名）	5,700名	28,120名	5,160名	38,980名
平　均	**33,000名**	**7,260名**	**21,130名**	**7,340名**	**35,730名**

以上のデータを参考に、本県では「身の丈にあった国体」を目指す観点から、**他県の開会式の規模よりも抑える**こととし、えひめ国体の開会式の参加想定者数は、

合計30,000名（内訳）入場行進者8,000名／観覧者17,000名／大会関係者5,000名

2 開会式を開催する地域の選定

① 交通アクセス、宿泊施設からみた開催地域の検討

多数の参加者が県内・外から集まるため、交通アクセスが優れていることと、大規模な宿泊施設が確保できることが不可欠であり、これらの条件を満たす地域としては、

松山市 が想定

＜交通アクセス＞
松山空港、松山観光港、ＪＲ松山駅、四国縦貫自動車道の存在

＜宿泊施設＞
松山市のホテル、旅館、民宿等で**合計6,580室／14,489名が宿泊可能**

② 開催地域における開会式に「ふさわしい施設」の検討

松山市において、開会式として多数の参加者を収容できる施設は、「愛媛県総合運動公園陸上競技場」と「松山市中央公園坊ちゃんスタジアム」とに絞られるが、現在想定される**8,000人規模の入場行進は、県陸上競技場でないと対応できない**ことなどから、

県総合運動公園陸上競技場 が適当

図1：「愛媛県総合運動公園陸上競技場」

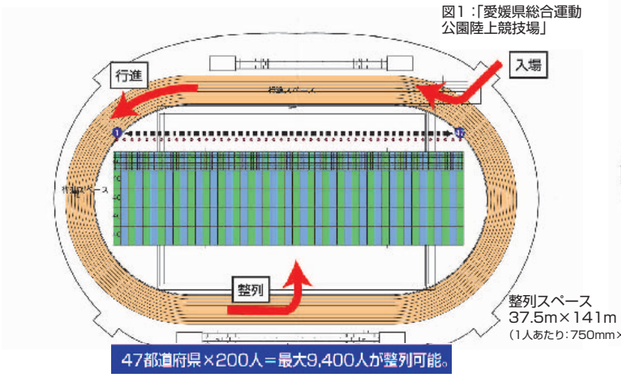
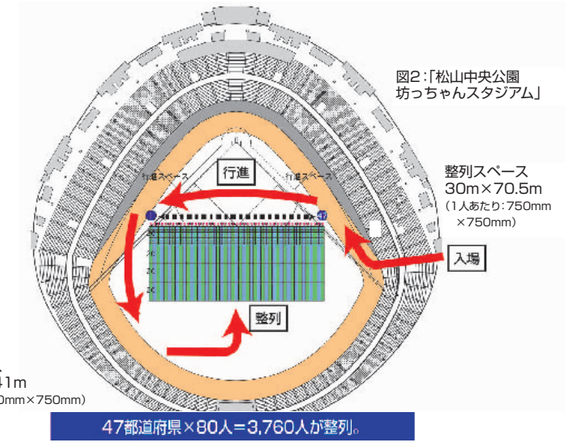


図2：「松山中央公園坊っちゃんスタジアム」



3. 開会式会場への交通アクセスについて

1 開会式会場へ向かう交通アクセスが抱える問題点

県陸上競技場に向かう交通アクセスの現状については、以下のような問題点が挙げられます。

［主な課題］

○松山市方面から県陸上競技場までの**交通機関は「車両」**に、また、主な**交通ルートは「国道33号線」と「国道11号線～県道松山東部環状線等」に限定**

○東予方面と南予方面からの主なアクセスは、それぞれ**「国道56号線もしくは高速道路」と「国道11号線もしくは高速道路」に限定**、また県伊予川内線等の道路の活用も検討

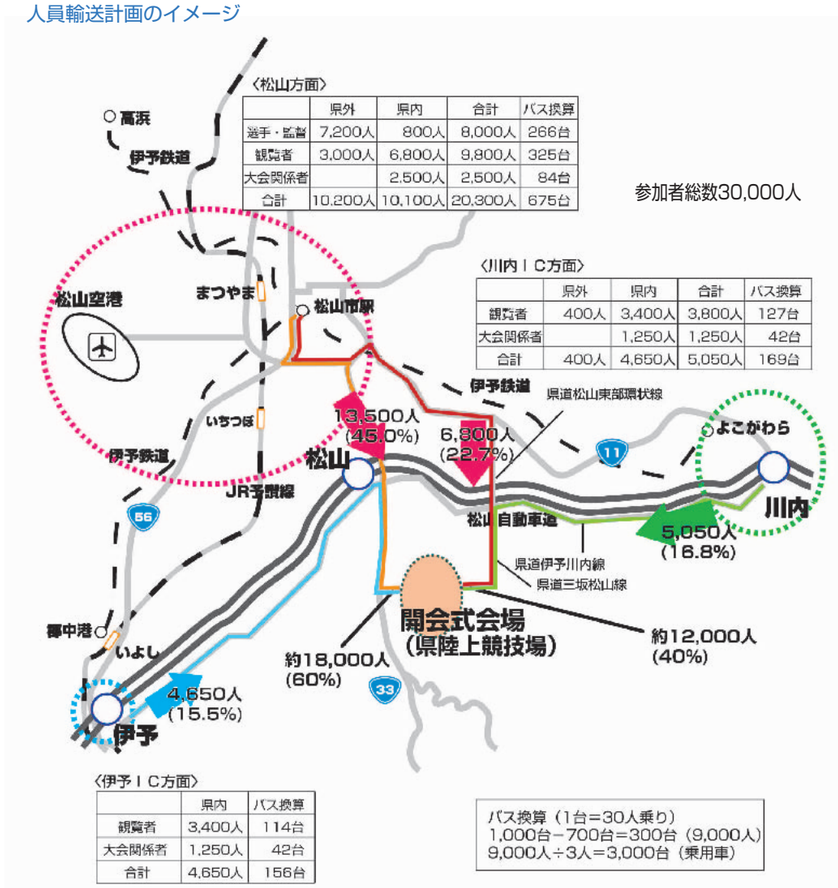
○ 特に、**国道33号線から公園入口までの道路で渋滞が発生**する恐れ

2 開会式当日の人員輸送計画（イメージ）の検討

開会式への参加者総数30,000人について、**入場行進者／観覧者／大会関係者ごとに、それぞれ県内／県外参加者の割合、当日の開会式場に向けた出発地点・進入方向・人数等を仮定**し、現段階で考え得る人員輸送計画のイメージは概ね以下の通りです。

- 想定バス台数　：**約700台**（※なお、四国４県が有する貸切り大型バスは約790台）
- 想定乗用車数　：**約3,000台**
- 駐車場の確保策：**公園内駐車場の増設・重層化の検討、公園外の空き地・河川敷等の活用**

人員輸送計画のイメージ



	県外	県内	合計	バス換算
選手・監督	7,200人	800人	8,000人	266台
観覧者	3,000人	6,800人	9,800人	325台
大会関係者		2,500人	2,500人	84台
合計	10,200人	10,100人	20,300人	675台

	県外	県内	合計	バス換算
観覧者	400人	3,400人	3,800人	127台
大会関係者		1,250人	1,250人	42台
合計	400人	4,650人	5,050人	169台

	県内	バス換算
観覧者	3,400人	114台
大会関係者	1,250人	42台
合計	4,650人	156台

4. 新しい県総合運動公園の全体構想について

1 開会式会場／競技会場としての県総合運動公園が抱える問題点

陸上競技場など県総合運動公園の現状については、以下のような問題点が挙げられます。

[主な課題]

○ 昭和55年開園以降、えひめ国体開催時は37年目となり、**各種施設は老朽化が進行するとともに、現行の耐震基準以前の建築物として抜本的な対応が必要**

○ 国体の開会式会場として**公園全体の敷地が手狭**であり、かつ**公園中心部に向かう道路が2方向しかないため、大規模イベントの際には入・退園時に大規模な渋滞が発生**

○ **主園路により各種施設が分断**され、観覧者の移動に支障をきたす

○ 30,000人の輸送を担う車両を**園内に受け入れるための駐車可能台数が絶対的に不足**

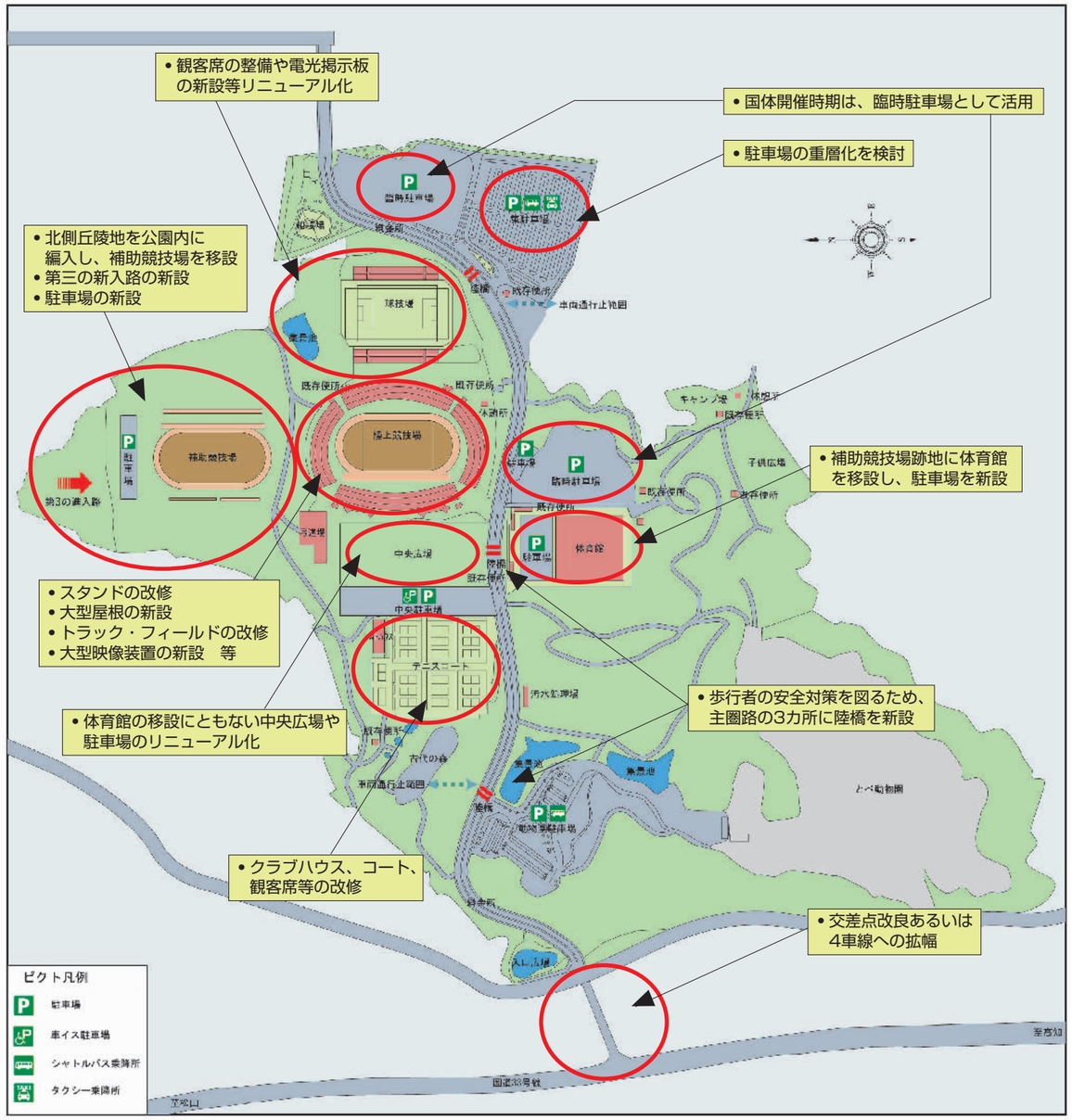
2 県総合運動公園の抜本的な構成の検討

参加者総数30,000人規模の開会式の開催、会期期間中の各種競技会の実施を円滑に進めるためには、

① **北側丘陵地の有効活用**／園内への**第3の進入路の新設**

② 陸上競技場をはじめとした**各種競技施設の移設・改修など抜本的な検討**

といった2つの観点から、県総合運動公園の抜本的な改修が必要

他県の整備事例等から100億円を超える規模が見込まれるが、今後内容を精査し**極力経費を縮減**

新しい県総合運動公園のイメージ